

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋

人にまっすぐ。
大阪教育大学**01** 創刊にあたって**02** リレーエッセイ**03** 交流事業の紹介**04** 加盟校出身学生・卒業生の紹介**05** 加盟校の取り組み紹介**06** 大学トピックス／編集後記

『学びの架け橋』創刊にあたって

大阪教育大学長 栗林 澄夫

このたび、大阪を代表する府立高校32校の参加のもと、『府立高校教職コンソーシアム』が結成され、本学との連携交流がスタートすることになりました。結成にご尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げるとともに、次代の教育を担い、支える人材養成のために、ともに手を携え、努力していきたいと決意を新たにしています。

今、教育を取り巻く状況はますます厳しさを増しています。そうした中、本学が教育現場のニーズにしっかりと応える実践型教員養成機能を高め、我が国の教員養成を牽引する大学をめざしていかなければならないと考えています。

この4月には、教育現場の様々な課題を解決し、牽引するリーダーを育成する『教職大学院』をスタートさせました。現職教員が働きながら学べるように、天王寺キャンパスで夜間に開講し、関西の有力私学である関西大学と近畿大学、そして大阪府、大阪市、堺市の教育委員会との連携による「オール大阪」の体制で、実践力を重視した魅力あるカリキュラムを提供します。

また、『世界に通用する教員養成』をめざし、世界各国43の協定校と連携して、①『使える英語力』の養成、②学生の海外派遣と留学生の受入、③様々な科目・分野でグローバル化への対応一をすすめるなど、全教職員の力を結集して、懸命に努力を重ねています。

そして、大阪、さらには日本の教育の発展に貢献

していきたいと考えていますが、そのためには、高校から教育への思い、情熱をもった生徒を送り出していただき、立派な教師に育てて世に出していけるように、大学と高校が一体となった取り組みが必要です。そうした意味からも、府立高校教職コンソーシアムと本学との連携交流はまさに時宜を得たものであり、双方向の人的交流を発展させていきたいと考えています。

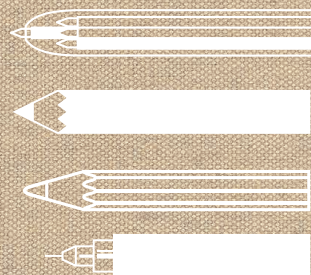
このメールマガジンは、本学からの情報提供だけでなく、学校現場での素晴らしい取り組み事例や交流事例も紹介し、情報を共有しながら、お互いを身近に感じ、高め合える、まさに『学びの架け橋』として発展させていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



私の高校時代

大阪教育大学理事 中西 正人

故郷は三重県員弁郡藤原村、今でこそ合併して、名前ばかりのいなべ市になりましたが、三重県の最北端で田中澄江さんの花の百名山の一つ、鈴鹿山脈藤原岳のふもとの辺鄙な山村です。山紫水明とまではいきませんが、山や川の豊かな自然の中で育ててもらったことをありがたく思っています。

素晴らしいふるさとなのですが、高校に入学した頃、一時劣等感をもったことがありました。私は自宅から自転車で15分かけて、三岐鉄道というローカル線の終点、西藤原駅まで行き、のどかな電車で揺られて1時間、四日市高校には毎日1時間半近くかけて通っていました。都会で暮らしてきたクラスメイトに対し、やはりコンプレックスがありました。

しかし、この年の四日市高校には画期的なことが起こりました。高校野球の夏の予選をあれよあれよと勝ち進み、岐阜県との三岐大会の決勝にも勝って、ついに甲子園出場がかなったのです。残念ながら甲子園では一回戦で負けましたが、私たちのクラスは予選からずっと一緒に応援に行きました。『地球をめぐる潮の音、耳に止めつつ学ぶ我等』に始まる気宇壮大な校歌をこの夏何回歌ったことかしれません。そしてクラスの結束は強まり、私の劣等感も消えていきました。

そのクラスの担任が武藤俊郎先生、厳しくも暖かい愛情を皆に注いでくれたすばらしい先生で、私は教師という仕事に憧れと深い畏敬の念をいただくようになりました。

私の高校時代はいざなぎ景気の真っ只中で高度成長の絶頂期、平和と繁栄を謳歌していましたが、一方でその矛盾が顕在化し、安保、沖縄問題やベトナム戦争があり、学生運動が日本中で吹き荒れた時代でもありました。そんな中で忘れられない衝撃的な事件が1968年8月20日、ソビエトのチェコスロバキアへの軍事介入です。

『プラハの春』は終焉し、あの時のチェコの人々の『ドブチェク、スポボダ』という叫びは忘れることができます。今でも私の携帯の着メロはスメタナのわが祖国『モルダウ』ですが、この事件はまじめで従順なだけの田舎の高校生だった私が社会に目を開かれるきっかけとなりました。

このころ憧れた人が、四日市の公害Gメンこと田尻宗昭さんです。田尻さんは四日市の人ではありませんが、1968年四日市海上保安部警備救難課長として赴任され、四日市ぜんそくを引き起こした公害垂れ流しの石原産業などを摘発されました。大企業に敢然と立ち向かう姿がかっこよくて憧れ、地域開発や環境問題、そして地方自治体の仕事にも関心を持つようになりました。

それから数年たった1973年、田尻さんは東京都の美濃郡知事に公害局規制部長として招かれ、地方自治体の公害行政に大きな足跡を残されます。私はちょうどその年に、黒田さんが反公害を掲げて知事になった大阪府の採用試験を受け、翌年、公務員人生をスタートさせることとなりました。

こうして思い起こすと、高度成長の矛盾の象徴のような四日市という町で高校時代を送り、そこに田尻さんという人が来て活躍されたことが、自分の生き方に大きな影響を与えたように思います。

私は憧れた教師にはなれませんでした。大阪府の教育委員会でたくさんの教師の友人達と一緒に仕事ができ、現在は大学の一員に加えていただいている事を本当にありがたく思っています。

いざ行かん 行きてまだ見ぬ山を見ん
目に青き山は 大空にあり

これは私が高校時代に大好きだった井上靖さんの自伝的小説「夏草冬濤(なつくさふゆなみ)」の中で、故郷の伊豆を離れて旧制高校へ旅立とうとする主人公の気持ちをうたった詩です。

府立高校教職コンソーシアムの教職をめざす高校生達には、まだ見ぬ山に向かって力強い一歩をふみ出し、努力をすれば必ず道は開けるということを信じて、前を向いて歩み続けてほしいと思っています。

そして、いつの日かそれぞれの山の頂を極めてくれること、その山の頂に至る道程の選択肢のひとつに大阪教育大学を加えてくれることを願っています。



中西 正人 なかにし まさと
大阪教育大学理事
(広報・附属学校担当)
元大阪府教育長



交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

府立高校教職コンソーシアムと大阪教育大学が意見交換

大阪府下の府立高校32校で結成された「府立高校教職コンソーシアム」と大阪教育大学との初めての意見交換会が、1月6日(火)に大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催されました。

冒頭に栗林澄夫大阪教育大学長が「高等学校との連携を促進するために、本学に対してご意見やご要望を伺いたい」と挨拶を述べた後、入口豊大阪教育大学理事から大学入試や就職状況、出身地域、課外活動、取得教員免許などの説明が行われました。

意見交換では、「高校と大学がWin-Winの関係を築き、ダイナミックな連携ができれば」「教員を志望する学生へのキャリア支援を充実してほしい」「若手教員が学び続けられる環境を提供してほしい」「学生や大学教員から大学での学習や生活について話を聞く場を提供してほしい」といった教育

現場目線の意見がいくつも出され、活発な議論となりました。

続いて行われた懇親会では、府立高校と大学の参加者一人一人が連携に対する熱いメッセージを述べ、この連携に対する期待を膨らませながら親睦を深めました。

栗林学長は「今回の結成はとても画期的なこと。コンソーシアム加盟校から多くの入学者を迎えている本学にとって非常に意義があることなので、今後もコンソーシアムと連携しながら具体的な取り組みが実現できるよう注力したい」と抱負を述べました。



府立高校教職コンソーシアムと大阪教育大学との意見交換会

平成 27 年 1 月 6 日 於：大阪教育大学天王寺キャンパス

加盟校出身学生・卒業生の紹介



なりた かつひこ
成田 勝彦 さん

学校教育教員養成課程数学教育専攻2014年度卒
三国丘高等学校2010年度卒

—大阪府の高校の数学教諭になられたそうですが、高校時代の恩師の影響だと聞きました。野球部顧問の辻英生先生の影響から、部活の顧問、できれば硬式野球部の監督になりたいと思うようになりました。辻先生は野球知識が深いだけでなく、規律や規範に厳しい人だったので、ぼくも部活動を通して

人間的な成長を促せる指導者をめざしたいです。

—部活に思い入れがあるんですね。

高校時代は中心選手として、夏の選手権大会予選でベスト16に進出しました。しかし大学ではベンチから外れ、栄光と挫折の両方を味わいました。厳しかった辻先生がベンチ外メンバーの心情を思いやって涙を見せた情景が甦り、ぼくも部員全員で支え合い、勝ちあがれるチームを指揮したいと思うようになりました。

—大学4年間はどうでしたか。

硬式野球部での練習に明け暮れ、濃い大学生活でした。活躍できなかった悔しさを乗り越え、より一層指導者として後進を育てる思いが強くなりました。

—三国丘高等学校はどんな学び舎でしたか？

ここぞというときの集中力には目を見張るものがありました。勉強や部活だけでなく、学校行事でも一切手抜きせず全力で楽しんでいました。ぼくも教員採用筆記試験を3か月ほどの勉強でクリアしましたが、その集中力は高校時代に培われたと思います。

—数学教諭としての意気込みをどうぞ。

数学が苦手な生徒が多いので、さまざまな角度から解答を導くプロセスを解説して、解くことが楽しいと思える授業づくりを頑張りたいです。

—教師をめざす高校の後輩へアドバイスを。

大阪教育大学の良さは、周囲が皆教員志望であることに尽きます。それぞれの教師観をもち、同じ夢に向かう仲間の存在は総合大学では得難いものです。互いに高め合い、理想の教師像を追求してください。

あさの まほ
浅野 真帆 さん

教養学科芸術専攻美術コース4回生
四條畷高等学校2010年度卒

—大学ではデザインを学ばれているそうですね。

1、2回生で絵画造形、デザインの基礎を学び、3回生でゼミに配属されます。わたしはデザインゼミに所属していますが、絵画と立体造形の知識や技術はデザインにも活かされています。

—ゼミではどのようなことを？

主にチラシ制作やロゴデザインを学んでいます。自主制作ではシルクスクリーンという印刷技法を用いて、植物を用いた模様のデザインに取り組んでいます。使う人に安心感を与えるようなデザイン心がけっていますが、こうした目的をもったものづくりの意識は“DAIKYO PRESS”での活動で培われました。

—学生広報組織のことですね。

DAIKYO PRESSは学生が主体となり、大学のバックアップを受けながら、主にフリーペーパーを通して学生の個性や活躍を伝えています。最初は自分たちのやりたい企画をそのまま行動に移していましたが、活動を進めるうちに“誰のためのフリーペーパーなのか”という気づきが芽生え、読者が望む記事をつくるという基本に立ち戻りました。

—メンバーの中ではリーダー的存在ですね。

メンバーの気づきや考える力を引き出し、発言しやすい雰囲気作りを心がけています。過去にも様々な活動でリーダーを務めましたが、高校の部活で副部長として大勢の部員をまとめた経験が役立っています。

—高校での思い出は。

何といっても部活です。吹奏楽部のフルートパートで仲間と共に練習に明け暮れる日々は、まさに青春でした。それも、自主・自立・自由をモットーとし、課外活動にも力を注げる環境を整えてくれた学校の気風があってこそだと思います。

—本学を志す後輩にメッセージを。

大阪教育大学も、学生の個性を尊重する大学で、何か行動を起こしたいときには、支援するツールがたくさん揃っています。勉強も課外活動も全力投球の畷校魂を大学でも発揮してください。





加盟校の取り組み紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立高槻北高等学校

昭和52年創立。平成28年度に40周年を迎える。
校訓は「自律・協力」。
平成24年「教志コース」を設置。本年3月に1期生が卒業した。

本校の「教志コース」は、教員養成系大学・短大への合格をめざす専門コースです。

教志コースの目玉は何と言っても2年次の必修科目「教志入門」と「教志体験」です。

「教志入門」は、連携大学教員による90分の講義です。内容は学校経営、生徒指導、教科教育法、支援教育等多岐にわたります。平成26年度は、18大学から延べ約30名の先生を招聘しました。

教志入門 講義テーマ例

「幼児教育の扉を開けてみると・・・」
「先生になる夢と子どものおもしろさ」
「教育心理学からみた教授法」
「教師の魅力 - 専門性とやりがい」
「道徳の授業の実際」
「若者世代が創る持続可能な未来」



生徒の感想（教志入門）

先生という仕事は生徒という人を相手にしているから、いろいろな人と付き合う力、コミュニケーション力が必要だと思いました。それに人を育てるということは、国や社会を育てるといえる程すぐ責任感も必要だし大切な仕事だと思いました。

—最後に—

教志コースを立ち上げて3年が経過しました。講師の招聘、実地実習の立案、評価など、課題は山積ですが、今後も地元高槻市や大学、関係機関との連携を深め、よりよい取り組みに高めていきたいと考えています。教志コースから巣立った生徒が、採用試験という難関を突破して、学校現場で活躍することを教職員一同楽しみにしています。

「教志体験」は、地元高槻市教育委員会をはじめ各学校園所の協力を得て行う実地実習です。生徒は保育所・幼稚園・小・中・支援学校で、子どもたちとのふれあいや先生方の仕事のお手伝いを通して、教師という仕事の魅力や厳しさ、やりがいを学びます。



生徒の感想（教志体験）

初めて先生という立場で小学生と接し、子どもたちの純粋さと素直さを見ることができました。「先生！」と話しかけてくれ、普段味わえないことを経験できて、小学校の先生の魅力を感じることができました。

最後のお別れのときに、1歳の子が足にしがみついてきて「バイバイしたくない」と言ってくれたのが、本当にうれしくてかわいくて、保育士の仕事はいいなと思いました。大変なこともいっぱいあるのに先生方はいつも笑顔で仕事していて本当にすごいと思いました。なかなか経験できないことをたくさんさせていただき本当によかったです。



キャンパスが360度見渡せる 「バーチャルキャンパス」を開設

キャンパス内の講義室や施設などがウェブページ上で360度見渡せる「バーチャルキャンパスガイド」を開設しました。

柏原キャンパスは、大学正門前から有名な3基のエスカレーターで登り、さらに共通講義棟前を通って事務局棟前に至るルートで、360度見渡せるストリートビュー形式で実際に歩いているかのようにたどることができます。また、大講義室、実験室、語学学習教室などの各種講義室、図書館や体育館、サッカーグラウンドなどの施設、食堂や売店など計29か所を、上下左右自由に見渡すことができ、実際にその場にいるようなバーチャル体験ができます。天王寺キャンパスも、正門から中央館入口までのストリートビューと、講義室やホール、自習室など7か所を見ることができます。

広報担当者は「本学は、近畿圏だけでなく全国各地から入学志願者が集まり、実際にキャンパスを訪れることなく受験する人もたくさんいます。そのような受験生や遠方の保護者の方々にもキャンパスの魅力が伝わればいいですね」とコメントしました。



学生作曲の東日本大震災鎮魂歌を OKU Channelで配信

東日本大震災の鎮魂歌『私とあなたここに生まれて』を、YouTubeの大阪教育大学専用チャンネルであるOKU Channelで配信しています。

福島県の詩人・和合亮一氏の詩に、本学大学院芸術文化専攻2回生の大森愛弓さんが曲をのせたこの合唱曲は、学生チャレンジプロジェクト『とどけよう!! みんなのこえ!!～東日本大震災復興コンサート～』のテーマ曲として誕生しました。コンサートで歌った子どもたちや観客を伝って、音楽団体から楽曲使用の依頼が届くなど、歌の輪ができ、さらにその輪を広げたいという思いから、音楽を専攻する学生ら有志による合唱を映像におさめました。

大森さんは「和合さんが書く、命の尊さや故郷への想いといった誰もが心に抱く詩に強く惹かれ、わたしも人々の心に残る曲をとの想いをこめて創りました。映像配信活動を通して、普段関わることのない方々との連携など、学生生活では学べないことも経験でき、わたしにとって特別な作品です。卒業後もこの歌の輪を大きく広げていきたい」と語りました。



編集後記

花粉が飛散する苦しい時期でしたが、教職コンソーシアム通信『学びの架け橋』創刊号を無事に発行することができ、一安心しました。この『学びの架け橋』は、①大学から府立高校への情報の提供 ②連携交流事例の紹介 ③加盟校の先進的な取り組みの紹介 を主な目的として、年4回を目標に発行していく予定です。

「先輩からの声」に登場した浅野さんは、広報担当者が日常的に接している学生広報「DAIKYO PRESS」の代表者で、とてもしっかりした素敵な学生さんだなあと考えていたところ、偶然にも四條畷高のご出身で、今回の人選で真っ先にピックアップしました。大阪教育大学の最大の魅力である「人にまっすぐ」な学生をどんどんアピールして、多くの高校生に魅力を感じてもらえたらいいな、と目論んでいます。(Y)